

[報告]

平成21年度全国共同利用情報基盤センター顕彰について

平成 21 年度顕彰授賞式が行われました。

全国共同利用情報基盤センター及び国立情報学研究所の運用に非常に顕著な貢献があった方々に授与される平成 21 年度全国共同利用情報基盤センター顕彰功績賞候補者として、先に本センターから推薦していた情報部情報基盤課高橋哲夫技術専門職員の授賞式が行われました。

授賞式は、昨年 11 月 6 日（金）午前 10 時から国立情報学研究所の当番により開催された、全国共同利用情報基盤センター研究開発連合発表講演会の冒頭で行われました。授賞式では、第 13 回全国共同利用情報基盤センター長会議議長である北海道大学情報基盤センター長名の表彰状と副賞（楯）が、当番校の国立情報学研究所の坂内正夫所長から、高橋哲夫技術専門職員（ご都合により授賞式は欠席され同課の高橋洋一技術専門職員が代理出席）を含め、3 名の受賞者の方々に手渡されました。

今年度顕彰を受けられた高橋技術専門職員は、永年に亘り東北大学サイバーサイエンスセンター（旧情報シナジーセンターと大型計算機センターを含む。）において、全国共同利用の大規模科学計算システムの利用者サービスとともにセンター運用への貢献が極めて大きいことが表彰の対象となったものです。

高橋技術専門職員は、昭和 60 年には、現在では主流のオペレーティングシステムである UNIX をサービスするために、DEC 社製のミニコンピュータ VAX-11/750 が導入されたことに伴い、このシステムの利用者登録、課金処理等の運用管理を担当し UNIX の普及に尽力されました。また、ワークステーションによる JUNET を介した電子メールのサービス、画像システム cips の構築と運用、そして、現在運用している利用者管理・課金管理システムの設計・構築及びその後のサービスに従事されてきたこと等、40 年の永きに亘り全国共同利用としての計算機の環境整備と運用管理に対して多大な貢献をされたことが今回の受賞に至った理由となっています。

『受賞者のコメント』

東北大学サイバーサイエンスセンター 高橋 哲夫

昭和 44 年に東北大学大型計算機センターに採用され、全国共同利用施設の職員として、計算機の利用環境整備と運用管理などを行ってまいりました。

今回、このような名誉ある賞をいただくことになり驚き恐縮しています。同時に大変嬉しくも思っております。

画像システム、利用者管理、課金管理システムなどの基本設計・構築を主に担当してまいりました。これらのシステムの運用面での実現は、センター教職員および計算機を提供しているメーカーの技術者には大変お世話になり、いずれが欠けても実現が困難なものばかりでした。それらの方々の尽力に対し篤くお礼申し上げます。今回の賞をその方々にも捧げたいと思っております。

このたびは、本当にありがとうございました。

